

がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴

宮ゆうこ（応用看護学）

【キーワード】 訪問看護 がん 終末期 高齢者
その人らしさ

本研究の目的は、がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴を明らかにすることである。訪問看護師10名を対象に半構造化面接を行い、その内容を質的記述的に分析した。まず、「訪問看護師が捉えるがん終末期高齢者の“その人らしさ”」と「がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護師の関わり」をカテゴリ化した。更に、これらのサブカテゴリ間およびカテゴリ間の関連性を分析し、「がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴」を抽出した。その結果、以下の結論を得た。

1 訪問看護師が捉えるがん終末期高齢者の“その人らしさ”

71のコード、22のサブカテゴリから【家族や地域の一員として過ごしてきた生活過程】【病気や障がいの折り合いの付け方】【人となり】【価値を置く日常の営み】【生きる支えとなる楽しみ】【生き方の選択】【治療の選択に関わる自己決定】の7カテゴリを生成した。

2 がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護師の関わり

87のコード、33のサブカテゴリから【本人の望む場で最期を過ごせるよう調整する】【生活習慣から人生を想起する機会をつくる】【家族や介護サービス利用などによる介護力から在宅療養継続の判断をする】【生きがいや楽しみが、継続できるよう支援する】【本人の望みに添うケア方法を選択する】【本人のやるせない気持ちに寄り添う】【家族が役割を發揮し共に過ごす時間をつくる】などの14カテゴリを生成した。

3 がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴

- 1) 生活習慣から人生を想起する機会をつくり、生活基盤を築いた素質や経験から、家族や地域の一員として過ごしてきた生活過程を捉える。
- 2) 家族関係や家族成員の役割を捉え、家族が役割を發揮しともに過ごす時間をつくる。
- 3) 病気や障がいの折り合いをつけながらその人なりの自立の仕方生活しようとする意思を捉え、本人の気持ちを優先し安全に過ごせるよう見守りながら、望みに添ったケアを工夫して行う。
- 4) その人に備わった考え方や行動の特徴をふまえ、本人のやるせない気持ちに寄り添いながら望む場で最期を過ごせるよう調整する。
- 5) 生きがいや楽しみなどその人が価値を置く日常の営みを捉え、これまでの生活習慣や嗜好、楽しみが継続できるように支援する。
- 6) 人生の最期を過ごす場や過ごし方について、本人や家族の選択や心構えを確認し、関わるすべての人が共にその人の人生に伴えるように調整する。
- 7) 家族や地域の介護力から在宅での生活が継続できるか判断する。
- 8) 多職種と連携し、症状緩和のための迅速な疼痛コントロールと希望に合った心地良いケアを提供する。

「訪問看護師が捉えるがん終末期高齢者の“その人らしさ”」とは、〔これまでの生活過程の中で培われた考え方や行動の特徴から、がんによる苦痛を持ちながらも、その人なりの自立の仕方ですべての生活を続けようとする意思を持ち、自ら望んだように人生の最期を過ごす決意を持って生活している様相〕と考えられた。

「がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護の特徴」は、〔やるせない気持ちを抱えながらも、人生の最期のときを在宅で過ごすという決意を支え、望みに添った安全で心地良いケアを提供し、関わるすべての人々とともに本人と家族の人生に伴う日常の中にあるケア〕である。